

知床国立公園マイカー規制にかかる利用者動態予測調査（案）

知床国立公園においては、夏期を中心に道道知床公園線の「知床五湖～知床大橋」間について、特に入り込み車両が増加する実態があった。このため、自然環境の保全と快適な利用環境の確保、更には交通事故の防止にも資するためには、同区間は一定の車両規制を早期に実施する必要があるとの認識が平成6～7年に地元の関係団体等の内外に強まってきた。そのため、「自動車利用適正化対策」の具体化に向け、交通規制を所管する警察署や当該道路の維持管理を担当する土木現業所、観光関係打団体・自然保護団体等の関係機関・団体で平成10年に知床国立公園カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会を設置して協議・調整を図り、全体の賛同を得て平成11年度に試行として車両規制を導入実施し、翌12年度からはお盆時期も含めて本格的に規制を実施してきている。

一方で、車両規制が行われていない知床五湖については、毎年夏期を中心に、駐車場への入場待ちのマイカー渋滞が発生しており、計画的かつ十分な公園利用ができないなどの影響が生じている。また、利用者の集中による利用環境の悪化や原始的な雰囲気の喪失などの影響も生じている。加えて、幌別地区から知床五湖間の道路沿線においてはヒグマが頻繁に出没することから、増加する公園利用者とヒグマとのトラブル発生も危惧されており、これらの課題への対策も求められている。

このような状況を踏まえ、本調査では、利用実態の分析及び利用動態の変化予測等を実施した上で、幌別から知床五湖までの自動車利用適正化のあり方を検討するものである。

1. 知床国立公園における自動車利用状況の整理

- (1) 知床国立公園カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会の資料等をもとに、知床国立公園における自動車利用適正化の経緯の整理を行う。
- (2) 既存の資料等を用い、知床国立公園内の主要立ち寄り地点、主要動線となる幹線道路における車両台数を把握した上で、関係者から情報収集を行い、問題点の整理を行う。

2. 幌別から知床五湖までの自動車利用適正化のあり方の検討

以下①～④に示す調査の実施、データの分析等を行い、幌別から知床五湖までのマイカー規制のあり方について検討・整理を行い、渋滞予測情報の事前提供等の規制以外の手法による対策、各種の手法を組み合わせた対策等、複数の対策の方法（規制期間、対象車種、乗換場所等）を提示し、それぞれのメリット・デメリットを整理する。

- ① お盆の時期の渋滞待ち時間の調査
- ② 既存の渋滞の待ち時間調査結果
- ③ 既存の利用者のアンケート結果
- ④ 関係者に対するヒアリング

3. 利用者動態予測

上記2.において提示された規制方法を実施した場合における利用者動態について、移動方法や五湖での滞在時間等を考慮した予測を行うとともに、規制実施にかかる各種のコストについてもそれぞれのケースについて概算を行う。なお、予測にあたっては、シャトルバスや路線バスの運行等のほか、現在別途検討が進められている知床五湖地区の利用のコントロールの実施及び高架木道の延長整備による利用者志向や滞在時間の変化等予測される変化を考慮に入れることとする。

4. 上記、1～3を踏まえ、知床五湖における妥当な規制方法について（必要な場合には数案を）提示するとともに、その実現のために平成21年度に実施すべき調査・検討の内容を提案する。